

舞姫レポート

私は、豊太郎の弱い心とは何だったのかというテーマにした。このテーマにした理由は、作品で豊太郎は自分のことを臆病だ、弱くてかわいそうだといっていたが、その弱さとは一体どのような弱さであったのか気になったからだ。このテーマについて、豊太郎の行動とその原因を中心に、その弱さのついて論じ、豊太郎の弱さから自分は何を感じ、何を学んだかをまとめる。

豊太郎がエリスと天方とを選べなかったという点と、豊太郎が相沢を憎んでいたという二つの点から彼の弱さについて考える。

まず、豊太郎がエリスと天方を選べなかったことについて。豊太郎にとって、エリスと天方は豊太郎が自分の存在を認める上で大切な存在だったから選べなかったのだと考える。なぜそのように考えたかという、ドイツに来て豊太郎は、日本にいたころの自分は、本当の自分ではなかったと考えるが、本当の自分はこんな人間じゃないという漠然としたイメージしかなく具体的なイメージがなかったからだ。だから、本当の自分がいるはずだと思いながらも、自分の存在がよくわからなかったのだと考える。自分の存在がよくわからなかった一方で、自分を必要としてくれる存在が欲しかったのだとも考える。日本にいたころ、豊太郎は母親や、長官に従って生きていた、つまり、彼らにとって都合のよい存在として生きてきた。ドイツに着てからは、同じ日本からの留学生にねたまれたり、疎まれたりしていた。だから、豊太郎は自分を都合のよい存在でも、ねたんだり、疎ましく思ったりせず、一人の人として必要としてくれる誰かが欲しかったのだと考える。だから、豊太郎は、エリスに必要とされることで、よくわからない自分の存在を認めていたのだと考える。しかし、日本にいたころの自分を否定しながらも、本当の自分に気づくまでは、偽りの自分を本当の自分だと信じていたので、豊太郎は、偽りのつじぶんが得た地位や名誉や、上司からのよい評価なども自分の存在を認めるためのものとして欲していたのだと考える。

豊太郎にとってエリスも、天方もじぶんのそんざいをみとめるうえで大切であったから、その大切な存在を失うことで、自分が傷つきたくなかったのだと考える。

また、豊太郎が相沢を憎んでいることについて。エリスが発狂した原因は、豊太郎がエリスか天方かを選べなかったことにあると考えられる。しかし、豊太郎は相沢を憎んだ。私は豊太郎は、エリスの発狂の原因が自分にあるとわかっていながらも、自分にとって大切な存在を自分のせいで失ってしまったことを認めたくなかった、つまり、豊太郎自身に非があることを認めたくなかったのだと考える。

このように考えた結果、私は豊太郎の弱さは自分がかわいかったことだと考える。豊太郎のように、自分が傷つきたくない、自分は悪くない、自分の悪さを認めたくないという気持ちはきっとだれにでもある気持ちだと思うから、豊太郎が悪いとは言わないし、そのように思うことを私は悪いとは思わない。しかし、それは自分に弱さを正当化して、その

弱さを認めようとしただけで、それでは豊太郎のように大切な存在を失うことになりかねないし、結局自分が傷ついてしまうと考える。だから、自分をかわいく思う気持ちがあることを認め。その弱さに打ち勝つことが大切なのだとこの作品を通して学んだ。